

製作都市

- 豊田市中心地における Fab 施設を拠点とした市民による交歓空間の創出 -



1 日常と防災 -市民によるまちづくり兼防災-

まちづくりを取り戻す
まちづくりとは地域社会に存在する資源を基礎として多様な主体が連携・協力して身近な居住環境を漸新的に改善していくことである。まちの活力と魅力を高め、「生活の質の向上」を実現するために行う持続的な活動である。(佐藤滋)

本来「まちづくり」は多様な存在が介入して行動を起こすべきである。

まちづくりの負産

○大量生産・消費における都市開発 ○インフラ・公共施設の老朽化 ○住みやすさによる場所の効率化

多くの開発が行われ人々には住みやすい環境となっている。しかし、開発により昔は無かった災害や今後想定できない災害が身をひそめている。住民が日常生活している中で発見した問題や課題などを彼らの手でつくり返す

2 市民の参加方法 -アンケート及び分析より-

1-aまちづくりへの参加意欲 **2-b求める空間**

□まちづくりの参加意欲

図1 住民参加について 図2 まちづくり参加について

A. 「機会を与える」「知識が無くても出来る」ことが必要
□年代とまちづくり参加方法

A. 求められている空間は「交流できる場」「休める場」

「休息」と「交流」に焦点を当てその中で日常的な効果と非日常的な効果を考えることで住民がまちを守っていく

市民が行う日常と非常時に対応するまちづくりの仕組みを提案する。

3 計画敷地 -愛知県豊田市駅周辺-

将来的な災害 **低未利用地の増加**

豪雨被害の様子(引用:トヨタ防災HP) 地震被害の様子(引用:トヨタ防災HP)

計画敷地の近くには矢作川が流れており洪水の危険性や南海トラフ大震災、間伐不足による土砂災害など多くの課題を抱えている。将来的にも人口減による整備不足による災害など予測される。

豊田市はオープンスペース及び低未利用地が多く存在する。実際にオープンスペースは利用者があまり居らず、活用が上手くされていない。低未利用地もそのままにされており整備が必要だと考える。

4 まちづくりと防災の方針 -二面性のある製作物-

市民の製作

6要素から組み合わせた30のスタイ

計画敷地の近くには矢作川が流れており洪水の危険性や南海トラフ大震災、間伐不足による土砂災害など多くの課題を抱えている。将来的にも人口減による整備不足による災害など予測される。

豊田市はオープンスペース及び低未利用地が多く存在する。実際にオープンスペースは利用者があまり居らず、活用が上手くされていない。低未利用地も残されており整備が必要だと考える。

市民の製作物の例

○A 夫婦 (28,30 歳) ○B さん (69 歳) ○C さん (32 歳)

計画敷地の近くには矢作川が流れており洪水の危険性や南海トラフ大震災、間伐不足による土砂災害など多くの課題を抱えている。将来的にも人口減による整備不足による災害など予測される。そこで日常的にも非日常的にも使える物を整備していく。

5 市民製作による日常と非常時の拠点 -まちの整備と防災-

階段は過渡的に避難場所を担う ルーバーにより日光を調整 雨による区画が生まれる 吹き抜けによる全体の気流 加工場で非常時に製作

①「吹き抜け」
階段の開口により上下の繋がりを果たせる。
②「ツツク」
吹き抜けを有する吹き抜けの開口となる。
③「広場」
広場は製作したものが置かれる。非常時は避難場となる。
④「雨ざらし」
製作物は製作したものが置かれる。非常時は避難場となる。
⑤「雨ざらし」
製作物は製作したものが置かれる。非常時は避難場となる。

①「吹き抜け」
階段の開口により上下の繋がりを果たせる。
②「ツツク」
吹き抜けを有する吹き抜けの開口となる。
③「広場」
広場は製作したものが置かれる。非常時は避難場となる。
④「雨ざらし」
製作物は製作したものが置かれる。非常時は避難場となる。
⑤「雨ざらし」
製作物は製作したものが置かれる。非常時は避難場となる。

6 将来像 -市民まちづくりの日常と非日常-

知識棟 Fab棟 研究棟 オフィス棟 実験棟

日常的に製作物を使用することにより「慣れ」が生じる。この時間が日常と非常時を繋げるものとなり、市民が製作したものにより愛着が生じる。非常時には様々な不安や懸念があるがそれらを製作物により安心へと転換させていく。日常と非常時を繋ぐまちづくりが豊田市を支え発展させていく。